

令和5年度  
(市政出前トーク)

## 名古屋城天守閣の整備について

(名古屋城総合事務所所蔵ガラス乾板写真)

### 名古屋城の価値と意義①

1

- 慶長15年（1610）築城開始
- 慶長18年（1613）以降、清須越が行われ、城下町が誕生
- 名古屋の都市形成と文化・芸能・産業のルーツ
- 焼失前の天守は、城郭として**国宝（当時）第一号**に指定  
(参考：国宝（当時）第二号は姫路城)



## 名古屋城の価値と意義②

2

### ○名古屋城天守の歩み

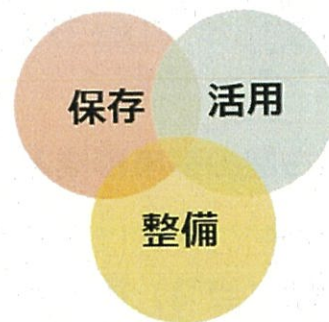
時 期	内 容
慶長15年 1610年	徳川家康の命により築城に着手
慶長17年 1612年	天守が完成
明治 5年 1872年	陸軍省の所管となる
明治26年 1893年	宮内省に移管され名古屋離宮となる
昭和 5年 1930年	宮内省から名古屋市に名古屋城を下賜 天守等が城郭として国宝第1号に指定（旧国宝）
昭和 7年 1932年	史跡指定 名古屋城の実測調査開始（昭和27年(1952年)に「昭和実測図」が完成）
昭和20年 1945年	第二次大戦中の空襲（5月14日）により焼失
昭和27年 1952年	特別史跡に指定
昭和34年 1959年	鉄骨鉄筋コンクリート造天守閣再建
平成21年 2009年	本丸御殿復元に着手⇒完成（平成30年）

## 特別史跡名古屋城跡保存活用計画

3

○平成30年度に策定

○名古屋城を後世へつなぐための**保存**、  
魅力向上を図る**活用（公開）**、  
保存と活用のための**整備**を進める



## 名古屋城「本丸」の整備

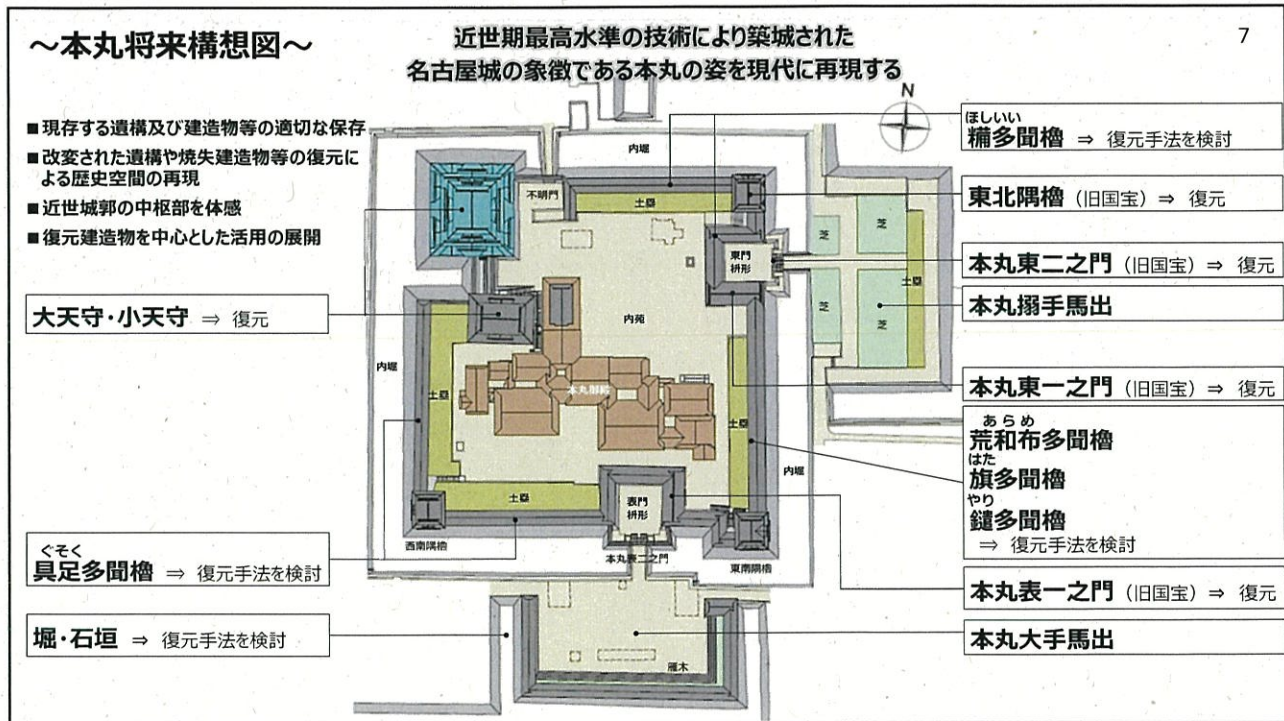
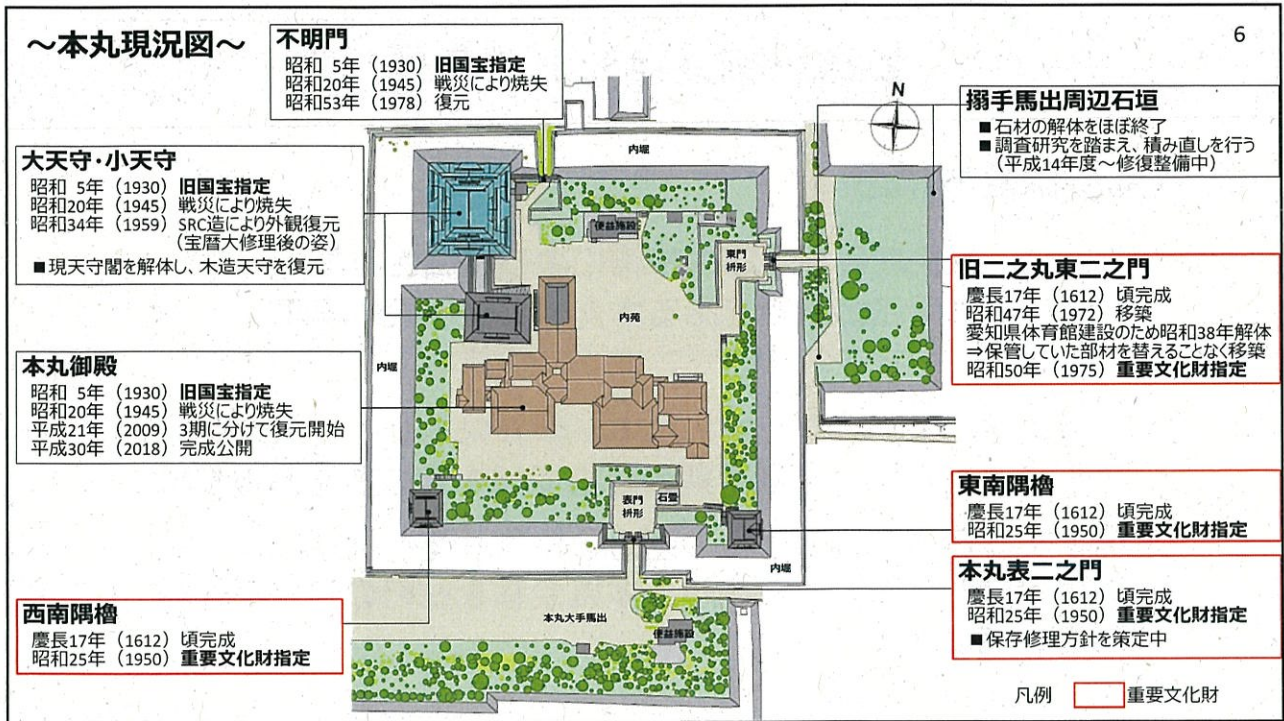
4

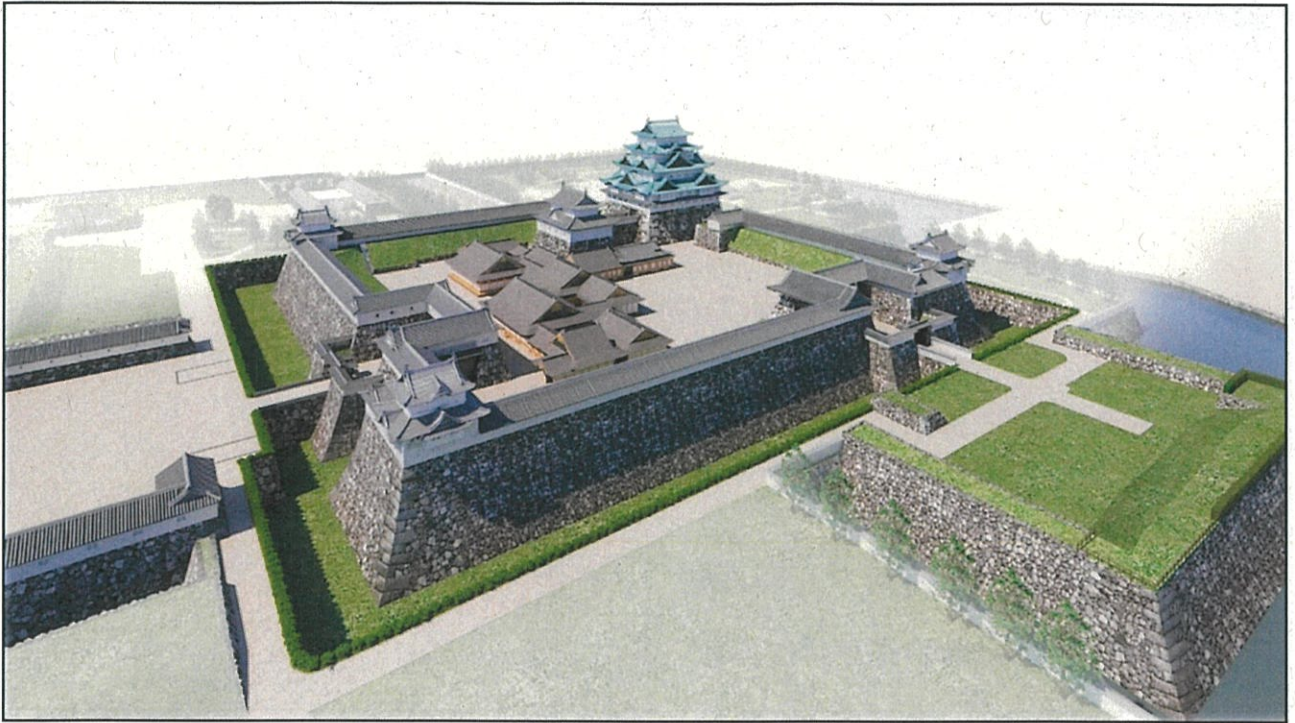
### ○本丸整備基本構想

近世期最高水準の技術により築城された  
名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現

- ・ 明治初期に姫路城とともに日本城郭の見本として永久保存されることとなった江戸期の名古屋城本丸の姿を再現する
- ・ 現存する石垣、建造物等の適切な保存管理と現存しないものの段階的な復元等により、本丸全体を往時の姿が実体験できる場とする

余 白





余 白

## 名古屋城「天守」の整備

10

### ○木造復元の意義

#### 特別史跡名古屋城跡の 本質的価値の向上と理解の促進

- ・本丸に現存する櫓や門、復元する建造物等とあわせて江戸期の本丸を体感
- ・世界最大級の高層木造建造物
- ・伝統技術の継承と実践の場

歴史的  
価値

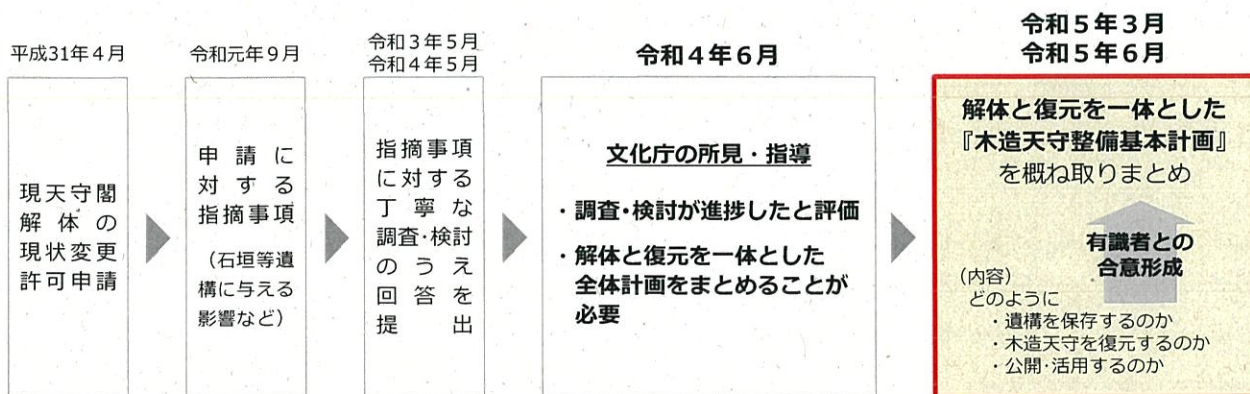
世界的  
価値

技術的  
価値

## 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画①

11

### ○基本計画策定の経緯



## 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画②

12

### ○位置づけ

- ・ 現天守閣の解体と木造復元の現状変更許可申請手続きを行うためには、文化庁の**復元検討委員会**での復元事業の妥当性についての議論が必要となる
- ・ その議論の開始のために、解体と復元を一体とした全体計画を「特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画」として取りまとめる

### ○構成

- |     |                  |     |                         |
|-----|------------------|-----|-------------------------|
| 第1章 | 木造天守復元の概要        | 第5章 | 復元時代の設定                 |
| 第2章 | 石垣等遺構の保存         | 第6章 | 復元原案の考証                 |
| 第3章 | 現天守閣の記録の保存と記憶の継承 | 第7章 | 現天守閣の解体・木造天守復元時における仮設計画 |
| 第4章 | 復元の根拠資料          | 第8章 | 復元計画と活用                 |

## 特別史跡名古屋城跡木造天守整備基本計画③

13

### ○復元の方針

- ・ 調査研究に基づく  
焼失前の天守の詳細分析
- ・ 遺構の保存に十分配慮した整備
- ・ 防災上の安全確保とバリアフリー



大天守1階 西側入側 (名古屋城総合事務所所蔵ガラス乾板写真)

## 調査研究に基づく焼失前の天守の詳細分析①

14

### ○復元の主な根拠資料

根拠資料	特徴
古写真	名古屋市国宝建造物対象撮影事業により撮影された焼失前の鮮明なガラス乾板写真(天守79枚) ▶復元建物形状、材種、納まり等の根拠
昭和実測図及び野帳 摺本・拓本	戦前の実測に基づいて作成された昭和実測図(天守71枚)のほか野帳、摺本・拓本 ▶建物規模に関わる柱間、階高等の主要寸法から各種部材の詳細寸法まで、復元建物の寸法を決定する根拠
文献	築城時の仕様等を確認できる中井家文書、宝暦大修理全体の仕様書「御天守御修復取掛りより惣出来迄仕様之大法」、名古屋城の百科事典的資料『金城温古録』等 ▶古写真による形状、昭和実測図による寸法に加え、仕上、仕様技法を補足

## 調査研究に基づく焼失前の天守の詳細分析②

15

### ○復元時代の設定

- ・天守と一体である天守台の石垣が宝暦の大修理で積み替えられ、その時の姿を今に残している。



**宝暦の大修理後の姿に復元**





## 調査研究に基づく焼失前の天守の詳細分析④

16

### ○経年変化による外観の変遷（銅板葺屋根の緑青化）

完成・公開時の姿



宝暦の大修理後と同じ姿



焼失前と同じ姿



## 調査研究に基づく焼失前の天守の詳細分析⑤

17

### ○内部空間

名古屋城総合事務所  
所蔵ガラス乾板写真



大天守3階 入側



大天守4階 破風の間



大天守5階 二之間



大天守地階 明り取り窓



大天守1階 石落とし・狭間



大天守2階 入側

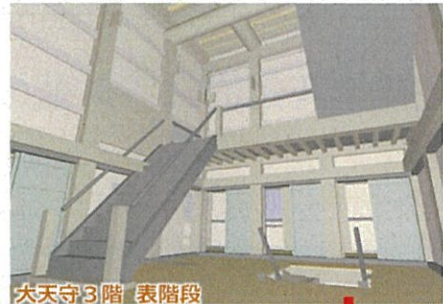
## 調査研究に基づく焼失前の天守の詳細分析⑥

18

### ○内部空間



大天守5階 畳敷きによる一ノ間三ノ間



大天守3階 表階段



大天守2階 複雑に組まれた梁



大天守2階 天守最長の松梁

(完成イメージ)

## 遺構の保存に十分配慮した整備①

19

### ○石垣等遺構の保存

天守台周辺の石垣について、現況把握のための調査を実施

- ▶ 特別史跡名古屋城跡の本質的価値を構成する石垣等遺構の残存状況や、文化財価値を低下させる恐れのある変形・変状の状況について評価・分類

### 保存のために必要な対策を整理

<石垣保存対策と対応手法の例>

#### ○日常管理

- ・ 日常観察、維持管理

#### ○モニタリング

- ・ 経常観察

#### ○修理（復旧）

- ・ 部分補修（間詰石補充、個別石材補修）
- ・ 面的な補修、強化
- ・ 部分補強（石垣前面の補強） 等

## 遺構の保存に十分配慮した整備②

20

### ○解体・復元工事時における仮設計画

- ・仮設物から石垣等を保護するため、石垣面等をシートで覆い、**軽量盛土<sup>※</sup>**で埋める**内堀保護工**を設置

※ 非常に硬い発砲スチロール

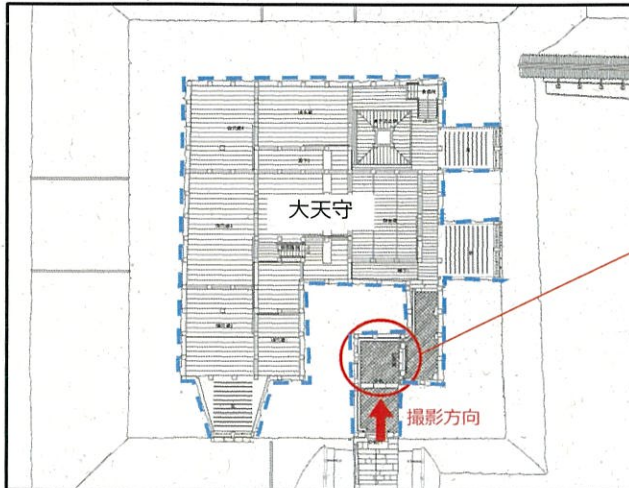


- ・工事に伴う仮設物設置による石垣等遺構への影響に関して工学的解析を行い、**石垣等遺構を確実に保護できることを確認**

## 遺構の保存に十分配慮した整備③

22

### ○主な課題：穴蔵石垣の修復・整備と基礎構造



大天守地階平面図



ガラス乾板「天守閣地階入口内側」

## 遺構の保存に十分配慮した整備④

23

### ○主な課題

#### 穴蔵石垣の修復・整備と基礎構造

- ・石垣保存の原則を第2章にまとめ、基礎構造については、今後第8章にまとめ。
- ・現天守閣解体後には、穴蔵石垣の全面的な発掘調査を行ったうえで、安全確保の対策と基礎構造について、改めて具体的な方法を検討していく。



## 防災上の安全確保とバリアフリー①

24

### ○防災・避難計画

観覧者等の安全性に関わる防災、避難計画については、第三者機関の評定等を取得し、現行の消防法、建築基準法と同等の安全性を確保

#### 対策1 避難安全性の確保

- ・ 3～4階に階段1箇所付加
- ・ 5階に避難ハッチ設置

#### 対策2 出火防止・初期消火

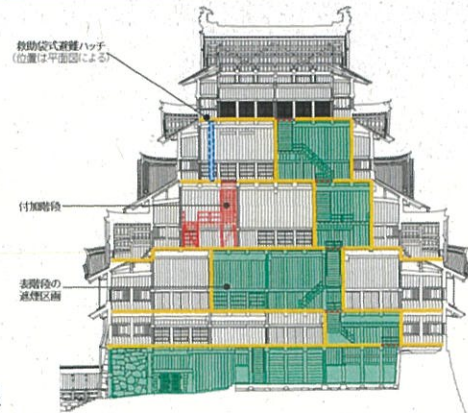
- ・ 煙感知器の設置、ITV等による遠隔監視
- ・ スプリンクラー、消火器、屋内消火栓等設置

#### 対策3 被害拡大防止

- ・ 蓄煙、自然排煙利用

#### 対策4 安全な避難経路の確保

- ・ 遮煙性を確保した表階段による避難経路の確保



## 防災上の安全確保とバリアフリー②

25

### ○バリアフリー

#### ・昇降技術の公募の概要

##### 募集する技術

史実に基づく復元にあたり、柱や梁を傷めることのない昇降技術を募集

##### 公募への高齢者、障害者等の参画

高齢者、障害者等からの意見を踏まえ、昇降技術を選定

#### ・公募の結果

最優秀者	株式会社MHIエアロスペースプロダクション
提案技術	フェリー等の船舶内及び航空機搭乗機材への導入実績のある技術をベースに開発する垂直昇降設備

## 防災上の安全確保とバリアフリー③

26

### ○目標とする構造的な性能

	1次設計 (中地震時)	2次設計 (中地震時)	暴風時
	稀に発生する地震 (数十年に1度程度)	極めて稀に発生する地震 (数百年に1度程度)	極めて稀に発生する暴風 (数百年に1度程度)
震度	震度5強程度	震度6強程度	—
最大層間変形角	1/60	1/30	1/30

#### ■参照する基準、規準、指針

- ・建築基準法、同施行令、国土交通省告示
- ・「2020年版建築物の構造関係技術基準解説書」 国土交通省住宅局建築指導課他監修 日本建築センター
- ・「重要文化財(建造物)耐震診断指針 2012年」 文化庁
- ・「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010年」(社)日本建築学会
- ・「木質構造設計規準・同解説 2006年」(社)日本建築学会
- ・「建築基礎構造設計指針・同解説 2001年」(社)日本建築学会
- ・「伝統的な軸組工法を主体とした木造住宅・建築物の耐震性能評価・耐震補強マニュアル(第2版)2014年」  
(一社)日本建築構造技術者協会関西支部

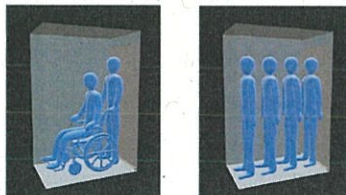
## 防災上の安全確保とバリアフリー④

27

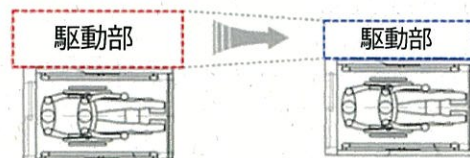
### ○バリアフリー

#### ・最優秀者の提案技術の概要

- 定員4名または車いす利用者1名と介助者1名が搭乗可能
- 木造の柱・梁を取り除かずに設置できるよう小型化
- 取り外すことで、往時の姿に戻すことが可能



搭乗イメージ



小型化のイメージ

## 今後の手順

28

今後、バリアフリー方針の再検討

